

福祉の仕事の魅力とは？

今回も市内の福祉事業所で働く方のインタビューをお届けします。やりがいや魅力にあふれた福祉の仕事。そんな仕事に皆さんも就いてみませんか。

社会福祉法人ひかり福祉会 米原蛸の家 生活支援員 山田 千枝子さん

身体、精神、知的等の障がいがある利用者の方が、共同生活を送るグループホーム（今風で言うとケア付シェアハウス）にパートタイムで勤務。利用されている方の安心できる「家」になるように、衣食住の暮らしそのものの支援に関わらせていただいています。

【普段の仕事はどんなことをされていますか】

普段は、生活支援員として、利用者が暮らすために必要な日常の支援をしています。食事提供や掃除、洗濯、また、利用者が作業所に通うための準備など、本人の思いを聞きながら暮らしの中で応援できることはなんでも行います。また、七人いる「世話人」と言われる職員の中でもリーダーをしているので、利用者の方が通われている作業所とのやりとりや、職員間、利用者間のトラブルを解決すること等、管理業務も担当しています。

【福祉の仕事をしたよと思ったきっかけは何ですか】

法人に入職する前は、栄養士として給食センターで働いていました。その後、結婚、出産を経て退職。自分にできることは何かと考えたときに調理技術を活かせる仕事がしたいと思い、現在の法人での施設調理師として入職したところ、実際は職種を超えて障がいのある方の支援に関わるようになり、おもしろみを感じてたというところですね。

【福祉の仕事で感じるやりがい】

通常の福祉以外の会社であればできない、人と人との関わりの中でしか培われない温かさも、たくさん感じさせていただいていると思っています。利用者も含めたチームが一つになって成果を出しながら喜びを分かち合えるというのはやりがいになっていると思っています。

【苦労している点】

実は特にはありません。仕事が合っているのかなと感じています。もちろん利用者の暮らしを支援しているため、お泊りの夜のシフトもあり、大変な面もありますが、利用者にとっては「家」であり私たちはその「家族」のような立場なので苦にはなりません。時々、障がいがあるゆえのトラブルや課題等もたくさんありますが、ケース会議を世話人の間で持ち、一人を抱え込まないようにしているので安心です。

【あなたも福祉の仕事に！】

やりがいのところで言えばよかったかもしれませんが、この仕事は衣食住を利用者と共にする機会が多いので、一緒に暮らしていると言ってもよいかと思います。それだけに、利用者から「ごはんがおいしいー」等、目の前で喜んでもらえたりすることも多いです。逆にうまくいかないのでも、怒りたいこともたくさんあると思いますが、その人に合わせた見方ができると、本当に楽しい瞬間がたくさん生まれる職場になりますよ。福祉の仕事では「受けとめる」が大事と言われますが、その人のありのままを受けとめることができれば自分も「楽」になると思います。

【コロナ禍で感じた思い】

私達、福祉職は、コロナ禍では手当てが出たり、感染症予防の備品支給など様々なサポートが受けられたりと優遇される職業だと感じています。それは、もちろん感染する危険が隣り合わせであるからなのですが、それでも私はこの仕事をやらなければならぬと思いました。なぜなら、いつもと違う状況になれば必ず困る利用者の顔が浮かぶからです。これからも利用者者とコミュニケーションをとりながらグループホームのなかでもソーシャルディスタンスを保つ工夫等、あらゆる感染症拡大防止対策をしながら感染を広げない努力はしていきたいと思っています。

【事業所のPR】

米原蛸の家は、美しい三島池のほとり、平成二十四年にできたグループホームですので、比較的新しくきれいな施設です。本当に住みたいと思えるような、モダンで広々としたお部屋がたくさんあります。また、現在七人いる職員でいつも困ったことがあれば情報を交換し合いますので、その名のとおりアット「ホーム」な雰囲気です。働きやすい職場となっています。ここに行けば家族のようなつながりを感じながらに感じることができるので、特に五十代～六十代の主婦、一人暮らしの方、退職されて第二の人生を楽しみながら仕事をしたい方等、パートタイムという短い時間での働き方のなかですが、たくさんの方のやりがいがあったお仕事です。まずは気軽に見学にお越しください。

社会福祉法人 米原市社会福祉協議会 権利擁護センター 日夏 麻弥さん

権利擁護に関するさまざまな相談に応じる権利擁護センターでパートタイムで勤務。障がいのある方や高齢の方が、安心して地域生活が送れるように関わらせていただいています。

【普段の仕事はどんなことを】

されていますか？

普段は支援員として、日常的な金銭管理や行政手続きが必要な書類に関して、支援が必要な方の相談に応じています。たとえば、ひと月のお金をうまくやり繰り出来ない方に関しては、一緒に使い方を考えさせてもらっています。どうしても自分で管理出来ない方については、通帳を事業所でお預かりして、必要時に出し入れさせていただくこともあります。あくまで主体は利用者の方なので、その方がどうしたいかをしっかりと聞き取り、一緒に考えていくことを大切にしています。

【福祉の仕事をしたと思うと】

きつかけは何ですか？

学生時代に、自分のありのままを受け入れてくれる友人たちに出会ったことがきっかけです。その友人たちはどんな私でも受け入れ、そばにいてくれました。誰かがそばにいてくれるという心強さと安心感を知って、私も誰かにそういった気持ち伝えたい、人と人をつなぐ仕事をしたい、と思い福祉の仕事を選びました。

【福祉の仕事で感じるやりがい】

人は一人ひとり抱えているものや置かれている状況が違います。この人にはどういった支援が良いだろう…と常に考えます。福祉の仕事を選んだきっかけは「してあげたい」でしたが、実際は「利用者の方が自分で出来るように関わる」とが大切であると学びました。私が関わる中で、利用者の方が自分の力に気づいて「やってみよう」と発信されたときに、よい支援が出来たとやりがいを感じます。

【苦労している点】

言いくいことをはつきり言わないといけない時があります。その中には、利用者の方にとっては不快な内容も含まれます。利用者の方が物事を「仕方がない」としむしぶ受け入れたいと思っています。どのように伝えれば理解していただけるか、表現によって伝わり方が違うので、伝える言葉の選択が難しいと感じています。

【あなたも福祉の仕事に！】

家族以外の、他人の人生の一部に関わり、一緒に歩んでいくということはずばらしいことです。その人の人生に関わることで、学ぶことも多く、人として成長出来る仕事だと思えます。また、喜びや感動を共有することで、自分が利用者の方の幸せにどれだけ貢献出来たかわかるので、自分の力を実感することも出来ます。

【コロナ禍で感じた思い】

自宅に訪問させていただく仕事なので、訪問する方も、される方も感染のリスクがあります。ですが、生活に密着している仕事なので、訪問しないわけにはいきません。感染症対策を行いながら訪問を行っています。中には外出自粛が余儀なくされる中で、不安になられる利用者の方もいらっしゃいます。こういう時だからこそ、一緒に考え寄り添う支援が必要ではないかと感じました。

【事業所のPR】

権利擁護センターでは、二人体制で利用者の方を担当しており、常に情報共有することで、何かあってもどちらかが対応出来るようにしています。また、事業所内で定期的な事例検討を行い、支援に対して意見を出し合う場があります。加えて、外部の研修や事例検討に参加させていただき、様々な視点や考え方を学ぶことが出来ます。勤務時間に関しては、フレックスタイム制を利用しています。私は子育て中なので、家庭の都合と利用者の方の都合を合わせて勤務を組み立てさせてもらっており、ライフステージに合わせた働き方が出来る職場です。